

1 基本情報

- (1) 国名：ミクロネシア連邦（以下、「ミクロネシア」という。）
- (2) 事業地域名：ミクロネシア全土（人口 7.6 万人）
- (3) 案件名：貨客船建造計画
(The Project for the Construction of Passenger-Cargo Vessel)
- (4) 計画概要：貨客船 1 隻を整備することにより、州間及び離島間の海上輸送サービスの安全性及び効率性の向上を図り、ミクロネシアにおける国内連結性の強化及び離島住民の生活基盤の改善に寄与する。

2 計画の背景と必要性

- (1) 本計画を実施する外交的意義

ミクロネシアは、日本、豪州及びニュージーランドを結ぶ縦のシーレーンとインド洋及び南シナ海から太平洋へ抜ける横のシーレーンが交わる、地政学的に極めて重要な国である。日本と同国の間には委任統治領時代以前からの交流の歴史があり、長年にわたり我が国漁船が同国の排他的経済水域（EEZ）で操業を行っている等、良好な二国間関係を築いている。

島国であるミクロネシアでは、貨客船は国民生活にとって必要不可欠な移動手段であり、我が国は、対ミクロネシア国別開発協力方針（2019 年 4 月）において、「自立かつ持続的経済成長と環境に配慮した国民の生活水準の向上」に向けた経済インフラ整備等への協力を行うとしており、第 10 回太平洋・島サミット（2024 年 7 月）の共同行動計画では、海上輸送を含む物理的な連結性の強化や質の高いインフラ開発への協力を掲げており、本計画はこれら方針に合致する。

本事業で想定する船舶は、長距離外洋航海、多様な港湾条件への対応、旅客及び貨物輸送の両立といった特殊な要求性能を有する貨客船であり、我が国は太平洋島嶼国向け貨客船建造の豊富な実績を有している。本年 7 月に閣議決定された日本成長戦略の戦略 17 分野には「造船・船舶修繕」が含まれており、供与後は我が国の造船所にて定期的に修繕を行うことが想定されることから、我が国企業の海外展開の促進及び造船業の振興にもつながるという観点から、本計画を実施する意義は大きい。

- (2) ミクロネシアにおける海運・造船セクターの課題及び本計画の位置付け

ミクロネシアは、4 州 607 の島と環礁が点在している国家であり、海上輸送は国民にとって不可欠なライフラインである。無償資金協力「離島漁村連絡船建造計画」

（1996 年 EN 署名、Caroline Voyager（CV）号、総トン数 1,335 トン、旅客定員 150 名）及び「国内海上輸送能力向上計画」（2013 年 EN 署名、Micronesia Navigator（MN）号、総トン数 920 トン、旅客定員 425 名）で整備された 2 隻の貨客船が 4 州間を行き来できる貨客船として運航しているが、CV 号は就役から 28 年が経過し、平均的な船舶寿命である 20 年を超えていることから、配管系統、機械、甲板機器等において著

しい劣化が見られ船体の外板や隔壁板の破孔のリスクが懸念されている。

同国政府の戦略的開発計画（Strategic Development Plan 2024–2043）及びインフラ開発計画（Infrastructure Development Plan 2025–2034）では、港湾インフラ整備や維持管理体制強化と一体で進めるべき国家戦略上の最優先課題として位置づけられている。貨客船建造計画（以下、「本計画」という。）は、CV 号の後継となる貨客船を整備することにより、州間・離島間の安定的輸送及び安全性・快適性の向上を図るものであり、同国における人流・物流の安定的確保と離島住民の生活基盤の改善に不可欠な優先度の高いものである。また、現在実施中の無償資金協力「ポンペイ港計画」（2024 年 EN 署名）との相乗効果も図ることができる。

3 計画概要

* 協力準備調査の結果、変更される可能性あり。

（１）計画内容

ア 施設・機材：貨客船（１隻、MN 号と同等程度を想定。）

イ コンサルティング・サービス／ソフトコンポーネント：詳細設計、入札補助、調達監理

（２）期待される開発効果

- ・ 単年度あたりの入渠修繕費用（米ドル／年）が減少する（基準値：679,000→目標値：497,000）。
- ・ 機器故障による不稼働日数（日／年）が減少する（基準値：21→目標値：0）
- ・ 燃料費用（米ドル／日）が減少する（基準値：6,850→目標値：6,590）
- ・ 年間延べ乗客数（人／年）が増加する（基準値：2,306→目標値：8,000）

（３）他ドナーの動向・ドナー連携の可能性

- ・ 中国政府がヤップ州及びチューク州向けに船舶を各１隻（Hapilmohol 号、Chief Mailo 号）整備しているが、Chief Mailo 号は 2019 年以降主機関や発電機の故障を繰り返し、現在は航行不能となっている。
- ・ 世界銀行による「Federated States of Micronesia Maritime Investment Project」（2019～2024）では、全国的な海洋インフラの建設と港施設の改修を進める計画であったが、新型コロナウイルス感染症拡大による影響により 2024 年 7 月末をもって未完のまま終了した。

（４）被援助国側実施機関：運輸通信インフラ省（Department of Transportation, Communication and Infrastructure。以下、「DTC&I」という。）

（５）実施体制、運営・維持管理体制

被援助国における海運部門を主管する DTC&I の海事局（Maritime Division）が主体となり、船舶の運航計画・日常点検・簡易修理を乗組員が実施する。DTC&I は、平成 25 年無償資金協力「国内海上輸送能力向上計画」（2013 年～2015 年）において新規貨客船の運営及び維持管理の経験を有しており、これまで十分な予算・人事措置ないし技術面の不備は生じていない。また、本計画にかかる維持管理費用は協力準備調査にて確認する。

（６）その他特記事項

- ・ 環境社会配慮カテゴリ分類： C
- ・ ジェンダー分類： GI（ジェンダー主流化ニーズ調査・分析案件）
- ・ ミクロネシアの所得水準は相対的に高いものの、人口約 7.6 万人の小規模島嶼国であるため、規模の経済が機能せず、また、地理的隔離性と国内市場の小ささから自国での生産的な産業に乏しいため自国の財政は非常に厳しく、自力での高額な船舶更新費用捻出や円借款等の有償資金による対応も困難である（経済的脆弱性）。CV 号の老朽化や既存船舶の喪失により輸送能力の低下に伴い、国家ライフライン（人流・物流・医療・教育サービス）である海上輸送の維持に支障をきたしており、緊急に対応する必要がある（緊急性）。2024 年7月に開催された第 10 回太平洋・島サミット(PALM10)の共同行動計画「4. 資源と経済開発」及び「7. 技術と連結性」において海上輸送を含めた物理的な連結性強化を含む質の高いインフラ開発に対する協力を掲げており(外交的観点)、また、日本成長戦略の戦略 17 分野に「造船・船舶修繕」が含まれていることから(重要政策との関係)、本計画はこれらの方針にも整合的であることから、無償資金協力に対応することが妥当と判断。

4 本計画に適用する類似案件の教訓

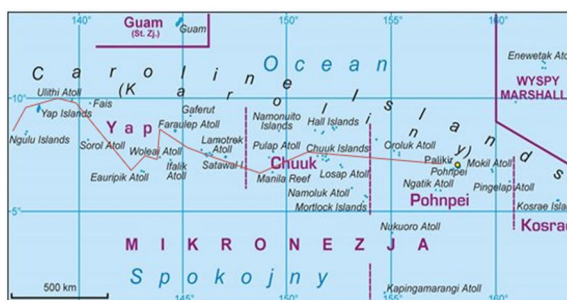
平成 20 年度対トンガ無償資金協力「離島間連絡船建造計画」（事後評価：2013 年度）では、予備部品を一定の頻度で定期的に交換して船舶の長寿命化を目指す予防的保守管理方針を採用することにより、故障を未然に防ぎ、船舶の状態を常に最適に保持していることが、安定的かつ安全な運航の実現に繋がっていることが指摘されている。本計画においても、予防的保守管理方針の具体的な実施のための事業計画（運航計画を含む）の策定をソフトコンポーネントとして取り入れることを検討し、新船の長寿命化を図る。

以 上

[別添資料] 地図 ミクロネシア「貨客船建造計画」

[別添資料] 写真 ミクロネシア「貨客船建造計画」

地図 ミクロネシア「貨客船建造計画」



ポンペイ ⇄ ヤップ州離島間航路の標準的なルート図

出典：現地調査に基づき、ミクロネシア連邦地図

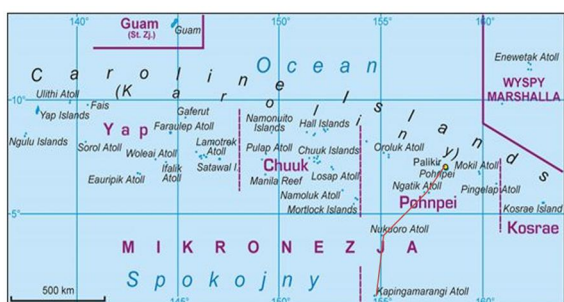
(https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Federated_States_of_Micronesia-map_PL.png) に加工してコンサルタント作成



ポンペイ ⇄ ウェノ⇄チューク州離島間航路の標準的なルート図

出典：現地調査に基づき、ミクロネシア連邦地図

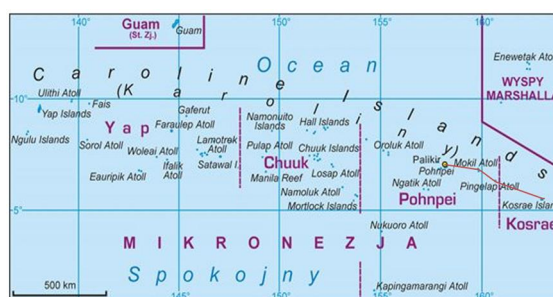
(https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Federated_States_of_Micronesia-map_PL.png) に加工してコンサルタント作成



ポンペイ州南方離島航路の標準的なルート図

出典：現地調査に基づき、ミクロネシア連邦地図

(https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Federated_States_of_Micronesia-map_PL.png) に加工してコンサルタント作成



ポンペイ州～コスラエ州東方離島航路の標準的なルート図

出典：現地調査に基づき、ミクロネシア連邦地図

(https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Federated_States_of_Micronesia-map_PL.png) に加工してコンサルタント作成

写真 ミクロネシア「貨客船建造計画」



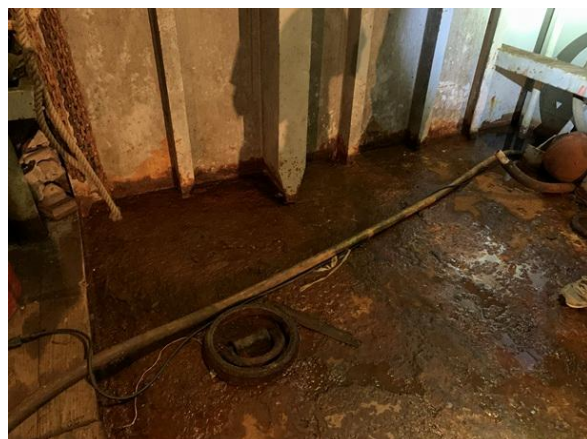
Caroline Voyager号（2026年1月撮影）



CV号の乗客収容施設（コンサルタント撮影）



CV 号の乗客は乗客スペースが足りないためカーゴハッチ上に乗船している（コンサルタント撮影）



主要構造部材の板厚計測を行った結果もっとも腐食衰耗が激しかったカーゴホールド底板（コンサルタント撮影）



Micronesia Navigator 号（2026 年 1 月撮影）



MN 号 - 後部甲板に旅客用甲板が設けられている（コンサルタント撮影）